

【応募資料①】 令和6年度既存のインフラを活用した水素供給低コスト化に向けたモデル構築・FS事業（二次公募） 作成要領

- * パワーポイントのフォーマット「【応募資料①】令和6年度既存のインフラを活用した水素供給低コスト化に向けたモデル構築・FS事業（二次公募）.ppt」をダウンロードして、下記の構成にて作成してください。
- * 下記（1）～（5）一式を令和6年7月12日（金）15時までに電子データにて提出してください。

<構成>

- (1) 事業概要(i)【各1～2枚（別紙参照）】
- (2) 事業の有効性【1枚（別紙参照）】
- (3) 事業概要(ii)【2枚（別紙参照）】
- (4) 令和6年度の予定【1～2枚程度】
- (5) 参考資料（図表・写真等）【1～3枚以内】

<注意事項>

※表紙不要

◎記載方法等ご不明な点等ございましたらお問合せ願います。

- ・ サンプルの構成（ページ構成、枠取りなど）を崩さないようにしてください。
- ・ 文字ポイント数は 10 ポイント以上（図表中の文字は任意の大きさとする。）
- ・ サンプルを参考に箇条書きや図表を用いて簡潔に整理してください。
- ・ 文字色が灰色となっている部分については提出時には削除してください。
- ・ 詳しい記載方法については、応募資料①内をご覧ください。

（1）事業概要(i)

①事業概要

事業の概要、背景、目的、手法、最終的な目標、について、平易な表現で、一読して分かるように記載してください。なお、FS (Feasibility Study) の中で活用を想定する既存のインフラ、水素の製造、貯蔵、輸送、供給、利用方策、再エネ電力やその他資源を低コストに調達する仕組みについても具体的に記載してください。

※製造から利用までの間の、貯蔵、輸送等の順番は想定する低コスト再エネ水素サプライチェーンに適したものに变更してください。

②事業概要のイメージ

フォーマットに沿い、FS の中で活用を想定する既存のインフラ、水素の製造、貯蔵、輸送、供給、利用方策、再エネ電力やその他資源を低コストに調達する仕組みについて、イメージ図を描いてください。

（2）事業の有効性

①CO2 削減効果

FS が事業化した場合と、2030 年、2050 年にこれが将来展開した場合について、応募資料②で算出した値をご記入ください。

②事業性の検証

FS が事業化した場合と、2030 年、2050 年にこれが将来展開した場合について、それぞれに期待される水素供給コスト（円/Nm³）をご記入ください。なお、各断面について想定する水素需要量（Nm³/年）も記載してください。

また、FS から事業化、2030 年、そして 2050 年に至るまでの道のりを記載してください。このとき、政策や市場、技術開発状況の前提や必要な取組がどのように水素供給コストと水素需要量に影響するのかも示してください。

なお、水素供給コストについて、水素製造、供給、輸送等の段階毎のコスト内訳を示してください。また、現時点でどの点にコスト削減余地があると考えているかを示してください。

※以下の政策提言等を踏まえてご検討ください

- ・ 水素基本戦略

https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/saisei_energy/pdf/hydrogen_basic_strategy_kaitei.pdf

- ・燃料電池・水素技術開発ロードマップ

https://www.nedo.go.jp/library/battery_hydrogen.html

(3) 事業概要(ii)

①事業の実施体制について

事業実施体制について、例も参考に、事業の代表実施者（代表者）および共同実施者が実施する業務内容及び分担業務を関連した分野の知見等と共に簡潔に記載してください。

なお、コンソーシアム等を組む場合、上記同様に、構成団体・企業等が実施する業務内容及び分担業務を関連した分野の知見等と共に簡潔に記載してください。

②FS 対象地域との連携状況について

FS 調査の対象とする地域の地方自治体との合意の状況、連携の状況（FS 調査事業実施期間中はどのように連携を行っていくか、事業に係る検討会のメンバーに当該地方自治体が含まれるかなど）、について記載してください。

③実施計画

FS の手順及び事業費について、調査項目ごとに記載してください。

※原則として単年度（令和6年度のみ）とします

(4) 令和6年度の予定

事業全体の目標並びにFS等の内容について、フォーマットに沿って記載してください。

(5) 参考資料

事業概要を補足する必要がある場合は、資料を追加してください。ただし、資料は3枚以内とします。